

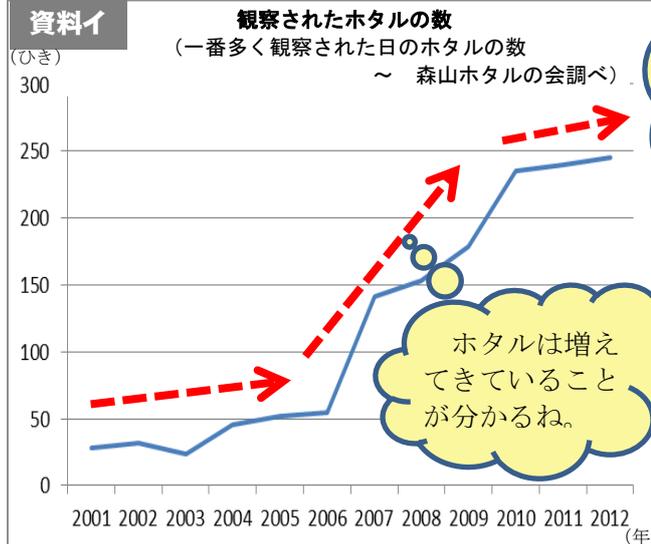
授業改善のポイント 第6学年

目的や意図に応じて情報を収集する力を付ける

図鑑、グラフ、調査結果、インタビューなど様々な資料を調べたり、関連付けて考えたりする活動を取り入れましょう。

文章全体を概観しながら拾い読みすることを**摘読**といいます。多数の資料を関連させて読むときに効果的です。

図鑑からは、体の大きさや特徴、成長の様子、生息地、えさ、繁殖など、生き物の一生にかかわる事柄が分かります。



「摘読」で大まかに読み取りたいね。その際、**主語**に着目すればよいね。

ホタルは増えてきていることが分かるね。

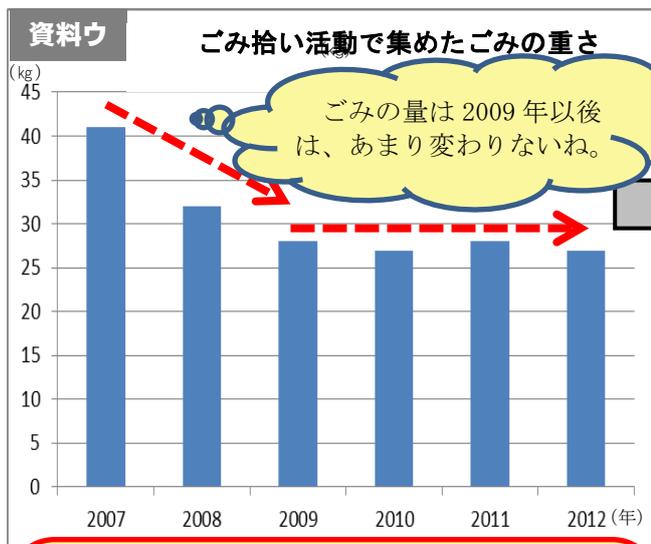


資料ア 図鑑「昆虫」より

【ゲンジボタル】 昆虫・カブトムシ亜目・ホタル科

体長は十二〜十八ミリメートル。体は黒色。胸と背は赤色で、黒色の十字型のもようがある。発光器をもち、オス、メスの両方が光る。五月下旬から七月にかけて羽化したメスは、川岸の落ち葉やコケに卵をうむ。成虫は、週間程度生きる。幼虫のときは水の中で育ち、主にカワニナなどの巻き貝をえさにする……

※ ギから成虫になること



グラフの読み取りの力を付けましょう。

- ・ 一番高いところはどこで、およそいくらか。
- ・ 一番低いところはどこで、およそいくらか。
- ・ 一番高いところは、一番低い所のおよそ何倍か。
- ・ 変化が最も大きいところはどこか。
- ・ 数値の推移の様子は「増加」「減少」「変化なし」のいずれに当てはまるか。
- ・ 複数のグラフを関連させて、関係性がないか。「Aが減ったらBが増えた」、「AもBも増えた」など。

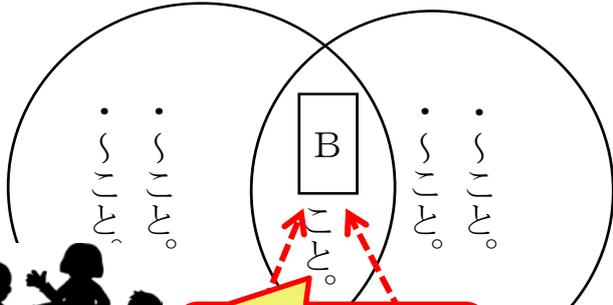
数値から判断・評価することが大切です。

- ・ 「この数値は多いと考える」
- ・ 「少ないと考える」
- ・ 「もっと増えてくるはずだ」

情報を整理・分類する力を付ける

かん板を使った
呼びかけ

回らん板を使った
お願い



双方に共通することが位置付きます。

ベン図・座標軸・マトリクスなど、思考ツールを使って、情報を整理・分類する活動に取り組みましょう。

「資料ケ」と「資料コ」を、ベン図を使って整理しています。ベン図を使った整理・分類では、その共通点をとらえることができます。メモを付箋に書くなどして、操作して、分類する力を付けましょう。位置付ける根拠をかかわらせるために、思考ツールは有効です。

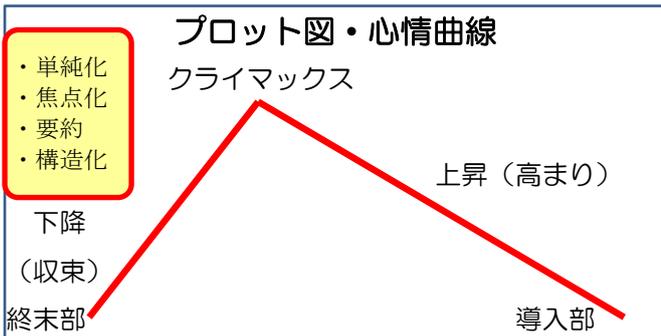
資料コ 【取材メモ 4】

- <かん板を使った呼びかけ>
- ・ ホテルを見に来る人たちへ呼びかける。
 - ・ マナーを守ること。
 - ・ **ごみを捨てないこと。**
 - ・ ライトで照らさないこと。
 - ・ ホテルをつかまえないこと。

資料ケ 【取材メモ 3】

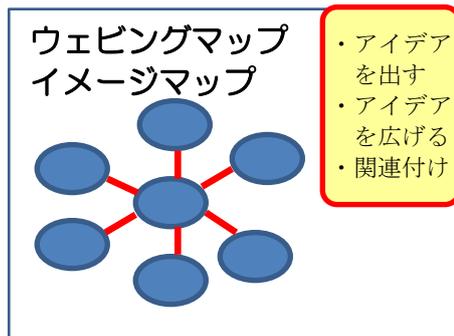
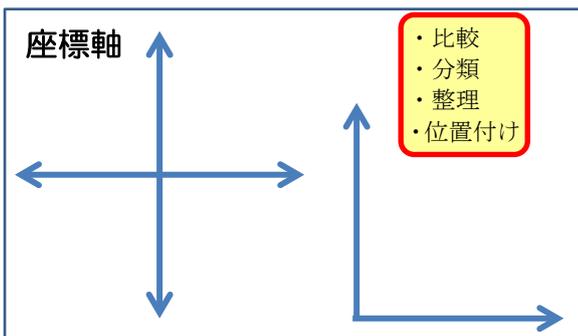
- <回らん板を使ったお願い>
- ・ 地いきの人をお願いします。
 - ・ 「ホテルの町」にするため。
 - ・ 台所から油や飲み物を流さないこと。
 - ・ 水がよごれたらだいなしだということ。
 - ・ **川岸にごみを捨てないこと。**

【思考ツール 例】



マトリクス

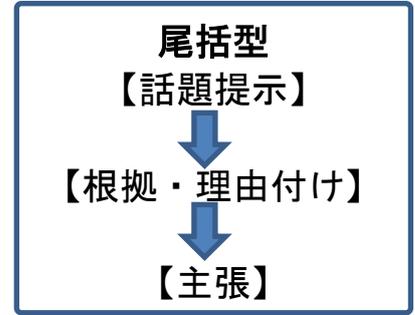
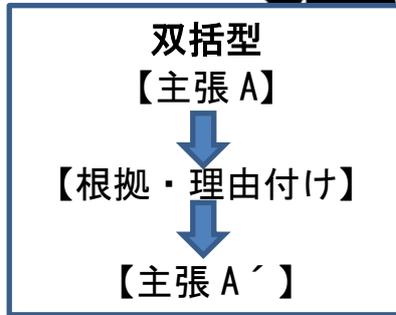
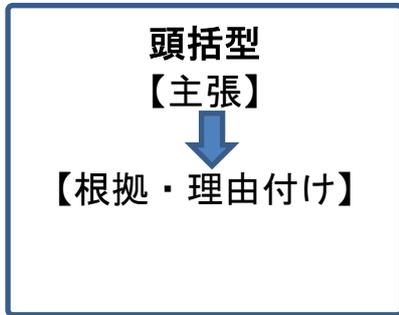
- ・ 分類
- ・ 整理
- ・ 比較



ツールを使って、「どうしてそこに位置付くのか」といった根拠出し合う言語活動を、場に応じて取り入れたいものです。

説得力のある文章を書く力を付ける

文の型と「中」の構成を意識して書かせるようにしましょう。



結論の置き場所によって、文の型が変わります。「読むこと」の学習と関連させて様々な型に慣れさせ、児童自身が選択できるようにしたいものです。

構成メモを使って段落を構成し、双括型の意見文を書く

双括型の構成で意見文を書く経験を増やしましょう。

「始め・中・終わり」の三部構成で、4段落で書きます。
・「中」の部分は、資料を2つ選んで書くので、2つの段落に分けます。

意見を整合させることが大事です。

終わり	中		始め	【構成メモ】
4 だん落	3 だん落	2 だん落	1 だん落	
<p>かかることで、マナーを守って見る人がふえて、ホタルの住みやすい川になると考えます。</p>	<p>資料から分かること (事実) ・ ライトを照らす人がいる。 資料から考えられること (自分の意見) ・ ホタルが仲間を呼ぶことができない。</p>	<p>次に、見る時に守ってほしいことを呼びかけます。 資料の記号 コ</p> <p>資料から考えられること (自分の意見) ・ そのまま観察した方がよい。 ・ 山本さんもやめてほしいと言っている。</p>	<p>まず、ホタルをつかまえないことを呼びかけます。 資料の記号 オ</p> <p>今年、かん板を使った呼びかけにも取り組むことを提案します。なぜなら見に来る人が気を付けなければ、ホタルの住みやすい川にならないと考えるからです。</p>	<p>今年、かん板を使った呼びかけにも取り組むことを提案します。なぜなら見に来る人が気を付けなければ、ホタルの住みやすい川にならないと考えるからです。</p>

「主張」⇒「資料から分かる事実」⇒「意見」の流れで「中」を構成します。



「中」に説得力をもたせましょう。

「中」の段落の述べ方は、作文の時だけではなく、発言するときや意見交換の場面などでも意識させていきましょう。

「選択した資料⇒その資料から分かる事実⇒事実から考えられる意見・判断・評価」というつながりを意識して述べさせましょう。

一文目は、接続詞やナンバリングで順を表し、ラベリングします。

**<例> 「まず、〇〇をします。」
「一つ目は、〇〇についてです。」**

二文目は、「資料」から分かる「事実」を述べます。

**<例> 「資料△から、〇〇なことが分かります」
「資料△で、〇〇されています。」**

三文目は、「事実」から考えた「意見」を述べます。
この時、「始め」の「主張」と関連させることが大切です。

**<例> 「〇〇というのは多いと思います。」
「〇〇することが必要だと考えます。」**

【調査問題解答例】

資料を受け た意見	資料から 分かること	選択した 資料
--------------	---------------	------------

まず、ごみを捨てないことを呼びかけます。
資料ウにあるように、毎年二十五キロ以上もごみが集められています。二十五キロも川にゴミがあると、川の水質が悪化し、魚が死んでしまうなど、環境に大きな影響を与えています。
次に、ホタルをつかまえないことを呼びかけたいと思います。「資料オ」にあるように、見に来る人がホタルをつかまえたことでホタルの数が減ってしまったことが分かっています。

資料を受け た意見	選択した 資料	資料を受け た意見	資料から 分かること	選択した 資料
--------------	------------	--------------	---------------	------------

まず、ホタルをつかまえないことを呼びかけます。資料オを見ること、ホタルを見る人がホタルをつかまえてしまうことが、数が減った原因の一つになっていきます。「資料」にあるように、山本さんもやめてほしいと言っています。自然の生き物をそのまま観察することは大事なことで、と考えます。
次に、ホタルを見るときに守ってほしいことを呼びかけます。資料イからホタルを見ながらライトを照らす人がいることが分かります。周りが明るいと、ホタルは仲間を呼びづることができるなくなってしまつてしまいます。